

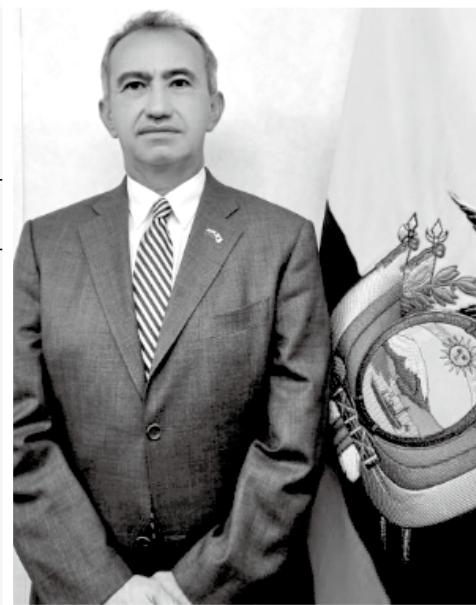
Interview

駐日ラテンアメリカ大使 インタビュー

エクアドル共和国

セサル・アウグスト・モンタニョ・ ウエルタ駐日エクアドル大使

日本との経済関係の 一層の拡大に期待



エクアドルのモンタニョ駐日大使は、ラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、ノボア政権の治安・経済・外交政策、ガラパゴス諸島の環境保全、日本・エクアドル関係の現状と展望などについて語った。同大使は、アンデス共同体事務局長、外務次官（経済・国際協力担当）、外務副大臣等を歴任し、2022年6月から駐日特命全権大使。インタビューの一問一答は次の通り。

—大使は駐日大使として着任されて約2年になりますが、日本についてどのような印象をお持ちですか。これまでの日本滞在で最も印象深い思い出は何ですか。

このようなインタビューの機会をえていただき、ありがとうございます。エクアドル大使として来日するずっと以前から、1997年に国際協力機構（JICA）の研修で訪日するという光栄な機会を得て以来、私の思いは常に日本に向いていました。そのとき以降、日本に来る機会はありませんでしたが、日本の技術やビジネスでの世界的な業績、国民の教育、美しい自然、文化、食文化に対して、常に大きな称賛の念を抱いていました。

この素晴らしい国での2年間の滞在で、私は日本への称賛を再確認し、この間に経験したすべての瞬間が忘れない思い出となっています。その中からいくつか挙げるとすれば、歴史的な建物や寺院を訪れたこと、訪れた各地域で変化に富んだ食文化を楽しんだこと、街角でも公共機関や民間施設でも人々が親切であったこと、そしてエクアドルと日本との関係を促進しようとの思いをもって礼儀正しく私を迎えていただいたことです。

—2023年11月、エクアドル史上最年少のダニエル・ノボア大統領（36歳）が、国会解散と大統領選挙の前倒しを行ったラッソ前大統領の残り任期（2025年5月迄）を受け継ぐ形で大統領に就任しました。国内の治安改善が喫緊の課題のようですが、治安悪化の原因、治安対策の現状と見通しについて教えてください。

ノボア大統領は、エクアドルを平和な国に戻すべく、絶え間ない闘いを続けています。大統領は、就任後の短い期間に、国の平穏に乗じてエクアドルを国際的な犯罪活動の拠点にした国際犯罪組織の取り締まりにおいて大きな成果を挙げました。

麻薬取引や人身売買、違法採掘などの関連犯罪の問題は、国際的な性質の問題であり、生産側と消費側の共同責任の問題です。国際的なマフィアが世界的な犯罪活動の産物として大きな資金力などを持つ中の困難な闘いです。エクアドルは、常に違法薬物の中継国でした。残念なことに、他のカルテルとつながりのある地元の犯罪組織は、国の平穏と人々の優しさを利用し、私たちの港から、漁港の入り江から、そして空路で薬物を密輸してきました。

これに対し、ノボア大統領は、軍隊を含む国内の治安部隊を総動員し、国民に混乱と恐怖をもたらそうとするマフィアをテロリストと認定しました。ま

た、大統領が実施した国民投票では、罰則の強化、犯罪者の引き渡し、特別裁判所の設置、国際組織犯罪との闘いへの軍隊の動員、犯罪組織の資産差し押さえなど、ノボア大統領が提案した法改正案が広く支持されました。国際的にも、ノボア大統領は国際組織犯罪との闘いを国連安全保障理事会に提起しました。今年（2024年）、エクアドルと日本は共に安保理非常任理事国を務めています。

ノボア大統領は、実業家としての経験を踏まえ、外国投資の誘致や中小企業の支援、さらには自由貿易協定の推進を重視しているようですが、ノボア政権の経済政策について教えてください。

世界各国との経済関係の促進は、ノボア大統領が重視している課題です。ノボア大統領は、エクアドルを開かれた国として位置づけ、国際法のすべての規定を尊重し、他国の内政に干渉しないとの原則の下で、世界のすべての国々と最良の関係を築こうとしています。

ノボア大統領は、自国経済の輸出力、生産力、活力の可能性を踏まえつつ、エクアドルへの外国投資を促進しています。その政策は、エクアドルとその民主的政府を信頼し、最近エクアドルに投資した日本企業のケースにおいて、具体的な結果をもたらしています。エクアドルの輸出企業と生産者のほとんどが中小企業であり、その多くが家族経営で、地元の労働力を多く取り入れています。

エクアドルは、日本の消費者に高く評価されている多くの製品の輸出において世界をリードしています。しかし、これらすべては、投資保護を組み込んだ貿易協定を日本と締結することによってのみ、確固たるものとなります。エクアドルは、アジアでは中国と韓国を含む、世界の大多数の国と貿易協定を結んでおり、現在カナダと交渉中です。現時点においては、日本との貿易協定の締結が最も重要な課題となっています。

現在、エクアドルは日本と共に国連安全保障理事会非常任理事国（2023年1月～24年12月）を務めていますが、貴国の外交政策の基本方針は何ですか。ウクライナでの戦争やガザでの戦闘についてはどういう立場ですか。

エクアドルは、国連安全保障理事会に参加する中で、国連憲章を含む国際法の遵守、法の支配、自由で開かれた世界、すべての国連加盟国の尊重といっ

た原則を共有する日本と、緊密な協力関係を築いています。この枠組みにおいて、エクアドルは、持続可能な平和の実現のために、紛争の平和的解決、国際組織犯罪との闘い、武力紛争下における民間人の保護、優先事項としての女性、平和および安全保障の課題、不拡散および不正武器取引との闘い、新たな脅威への対応などに取り組んでいます。

ウクライナでの戦争については、ノボア大統領は6月15、16日にスイスで開催されたウクライナ平和サミットに参加しました。そこで大統領は、平和的解決、対話と交渉がこの深刻な紛争による人的被害と物的破壊を終わらせ、恒久的な平和を実現するための基礎となるものであり、国際社会の協力の下で当事者間の和解と信頼回復を図ることが不可欠であると強調しました。そして、同サミットの共同宣言文書に署名しました。

ガザでの戦闘に関しては、エクアドルは、イスラエルとパレスチナの1967年の国境線を尊重すること、紛争を解決する唯一の方法として二つの国家を創設することなどを求めるすべての国連決議を支持しています。また、エクアドルはパレスチナを自由で独立した国家として承認し、同国に大使館を置いています。安保理非常任理事国として、停戦、人道援助物資の搬入、紛争を解決する唯一の方法としての交渉を求めるすべての安保理決議を支持してきました。エクアドルは、あらゆる種類のテロ行為を拒否し非難とともに、紛争を平和的に解決し、国際人道法を尊重すべきであり、その違反は調査され、処罰されなければならないとの立場です。

一貴国には、ガラパゴス諸島をはじめ豊かな自然遺産があり、その保全やエコツーリズムに先駆的な取り組みをしていると聞いていますが、現状を教えてください。

エクアドルは、世界自然遺産の尊重と保護を国内外で推進する世界のリーダー国のです。エクアドルは本土とガラパゴス諸島に多数の国立公園を有しています。2022年にガラパゴス海洋保護区に6万平方キロメートルを追加するエルマンダ保護区と呼ばれる新たな保護区を創設しました。これは、太平洋の豊かな生物多様性を保護し、ガラパゴスにおける持続可能な観光を促進することを目的としています。

また、コスタリカ、コロンビア、パナマとともに、エクアドルは東部熱帯太平洋海洋回廊（CMAR）における生物多様性の保全と沿岸海洋資源の持続可能



アマゾン ナポ・ワイルド・ライフセンター
(世界屈指の生物多様性を誇るヤスニ国立公園内にあるサステナブルなロッジ)



コスタ（沿岸部） マレコン 2000
(グアヤキル市のランドマークともいえる海沿いの公園)



アンデス パネシージョの丘（巨大な聖母像があるキト市の旧市街、新市街を一望できるランドマーク的な丘）



ガラパゴス ガラパゴス諸島に生息するガラパゴスリクイグアナ。サボテンの実を好んで食す
(写真はすべてエクアドル大使館提供)

な利用を目指して、生態系管理と政府共通戦略の確立を進めています。エクアドルは、違法、無規制、無報告の漁業を拒否し、他国とともに乱獲を規制し、公海上の絶滅危惧種や海洋資源の保護を促進することを目指しています。

—日本とエクアドルは、100年以上に亘る交流の歴史がありますが、現在の二国間関係をどう評価されますか。今後の可能性や課題についてどうお考えですか。

両国は100年以上の外交関係にあり、文化、教育、科学、開発協力の分野で重要な交流を行ってきました。両国の友好関係はかつてないほど強固なものであり、国際的な課題における我々の行動を裏付ける価値観を共有しています。貿易・投資分野には将来的な成長の余地があります。現在、貿易収支はからうじて5億ドルに達していますが、その拡大は今後の課題です。そのためには、エクアドルが希望している日本との貿易協定の締結が必要であると考えています。

—日本とエクアドルとの関係の進展に向けて、大使として、特に力を入れて取り組んでおられることは何でしょうか。

私が取り組んでいることは、エクアドルの文化、観光、産品、一般的な知識を日本の人々に広めること、そしてエクアドルの豊かな食文化を伝えること

です。同時に、オープンスカイ協定締結による連結性の向上、ワーキングホリデー協定の締結を通じた若者の交流、日本に来るエクアドル人のビザ免除、貿易・投資促進のためのビジネス関係者間の交流の促進などについても取り組んでいます。

—『ラテンアメリカ時報』の読者に対してメッセージがあれば、お願いします。

ラテンアメリカ地域、とりわけエクアドルに関心を寄せてくださる皆様に、誌面を通じ、ご挨拶できることは大変嬉しいことです。日本から見て太平洋の反対側に位置するエクアドルは、沿岸地域、アンデス山脈地域、アマゾン地域、ガラパゴス諸島という4つの地域から成っています。雄大な自然と生物多様性、多様な気候、多様な産物、多様な言語、多様な民族を生み出し、エクアドルを多様性、多文化、多民族の国家にしています。

皆様には、今後ともラテンアメリカ地域に関心を持っていただきたく、我々の国々と日本との友好を促進し知識の普及を図るラテンアメリカ協会の活動を引き続き支援していただければ幸いです。

(注)本インタビューのスペイン語全文は、ラテンアメリカ協会ホームページ英語サイト Interviews 欄に掲載しています。

(ラテンアメリカ協会副会長 佐藤 悟)